

高山・市民の森 森林教室実施報告書

「森の散策と花炭作り」

実施年月日 平成 29 年 9 月 10 日

- 1 実施日時： 9 月 10 日（日） 10：00～14：30 天気：晴
- 2 実施場所： 静岡市高山市民の森
- 3 参加講師： NPO 森林インストラクターしずおか
担当会員： 大石正教（主）、早川和男（副）
アシスト会員： 青野ダイチ、井上俊、内野則夫、越智寿美子、小久保忠嘉、
杉山雅章、高橋健三、増田将、矢下博
- 4 参加者： 12 人（大人 6 人、 子ども 6 人）（但し、途中参加者含む）
- 5 実施項目： 午前 森林散策、 午後 花炭作り、 追加企画 太陽光での焼芋作り
- 6 実施内容：

〔午前： 森の観察〕

子どもさんの意向で、山頂まで登ることになった。相変わらず、子どもさんはチョウやバッタなどを追いかけることが多かったが、9 月に咲くタマアジサイの名前の由来や杉の木の枝葉が南側に多く張り出している植物の仕組みについて話したり、キリの木の成長は早いので昔の農家では女の子が生まれると嫁入り道具のタンスに使うためにキリを植えた話などをした。その内、昆虫を追いかけていた子がヤマジノホトトギスを見つけた。少し奇抜な花卉の形に興味をもったのだろうか。

おしなべて、匂いと味には敏感で、サンカクヅルの実を食べてブルーベリーのように似ていると言っていた。また、クロモジの香りの良さや用途を話したり、クサギの葉と実の匂いの違いを嗅ぎ分けてもらったりした。

〔午後： 花炭作り〕

従来、材料は木の実や松ぼっくりのようなものがほとんどであったが、今回は幅広く材料を集めることにして、その材料を使って事前に花炭作りをして試した。材料には、野菜、枯れ葉、折り鶴など意外性のあるものも入れてみた。

参加者たちは、燃え盛る火の中で、自分たちが入れた材料の入った缶が煙を吹き出すのを見て、心配そうに見つめていたけれども、缶を火から離して、ある程度冷ましてから中を覗いてみて、立派に花炭になっていることを確認して喜んで持ち帰っていた。

〔追加企画： 太陽光での焼芋作り〕

心配された天気にも恵まれ、太陽光が何とか確保できた。持ち込んだ道具を使い太陽光線を集めて焼芋を作った。目標温度の 90 度 C には届かなかったがおいしい焼芋が食べられた。

7 実施状況

さあ頂上目指して登ろう



子どもさんはずっと先を歩いている



ねえ見て、シャクトリムシだよ



説明に参加者も注目



こんなに火力が強くて、うまくできるかな



花炭作ったよ 上手でしょう！



以上の通り、報告いたします。

NPO 森林インストラクターしずおか

担当： 大石、早川